

“Change!”

100th Anniversary Corporate Profile



前田建設工業株式会社100周年記念ロゴマーク
100周年記念ロゴマークは、前田建設が土木から
はじまり、建築、そして脱請負へと事業を展開し
てきた企業であることを100の数字の中に表現す
るとともに、次の100年に向けて飛び立ち、新し
い社会をつくっていく企業姿勢を表しています。

CONTENTS

5 MAEDA Now & Future

5 MAEDA Now

13 MAEDA Future

17 Dialogue on the Future

前田操治 × 米倉誠一郎氏対談

21 MAEDA 100 years Story

23 人や社会のライフラインを支える

27 まちの発展に貢献する

31 持続可能な暮らしを支える

コンセッション事業
Concession
Business

Creating Shared Value
共有価値の創造

グローバル人材
Global Person

New
Construction Service
新たな建設サービス

Engineering Ability
エンジニアリング力

Comprehensive
Infrastructure Company
総合インフラサービス企業

土木、建築、その先へ。

1919年、山岳土木から前田建設の挑戦が始まりました。
100年の歳月を経て、その挑戦は都市土木や建築、海外
に展開。人々の暮らしとライフラインを支える存在へと成長
を遂げました。今、私たちがめざすものは、持続可能な
社会を実現する総合インフラサービス企業。MAEDAの
新たな挑戦は、すでに始まっています。

Infrastructure

人や社会の ライフラインを支える

ダム建設から始まった挑戦の歴史。
山岳土木から都市土木、そして世界
進出を果たし、社会のライフライン
を支えています。



Advancement

まちの発展に 貢献する

土木から建築へ。揺るぎない経験
と技術に裏付けられた挑戦を重ね、
多様性ある未来の「まちづくり」を
担い続けています。



持続可能な 暮らしを支える

脱請負からコンセッション事業への
新たな挑戦。総合インフラサービス
企業MAEDAは、社会の持続可能
な発展に貢献します。

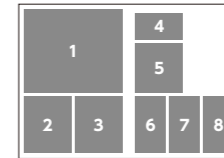
Sustainability



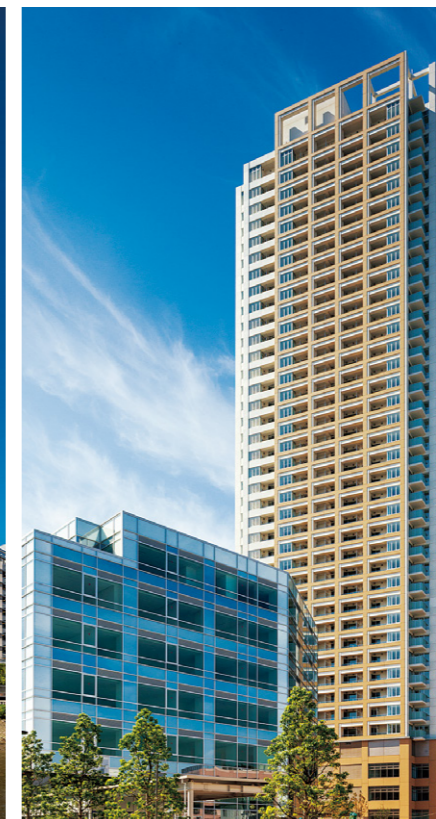


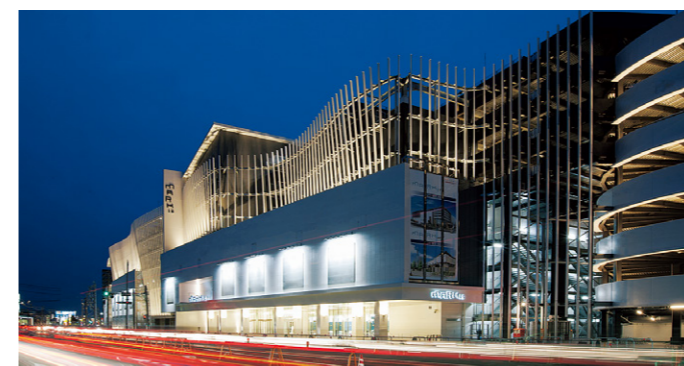
くらしの場をつくる

都市再開発、超高層住宅、そして複合ビジネス施設。前田建設は、RC造高層マンションなどの高度な建築技術を駆使し、たくさんの人々が集い、くらしを営むまちをつくります。



- ① 飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発(東京都千代田区)
- ② THE TOKYO TOWERS(東京都中央区)
- ③ 住友不動産麻布十番ビル(東京都港区)
- ④ リバーウォーク北九州(福岡県北九州市)
- ⑤ 富山市桜町一丁目4番地区再開発(富山県富山市)
- ⑥ BIG FRONT ひろしま(広島県広島市)
- ⑦ 本八幡A地区第一種市街地再開発(千葉県市川市)
- ⑧ 住友不動産半蔵門駅前ビル(東京都千代田区)





豊かさを分かち合う

学校、病院から、ホテル、レジャー施設、倉庫、商業施設まで。前田建設は、人々が暮らしの豊かさを分かち合い、広げていくために欠かせない、多様な建造物を生み出します。

1	6
2	7
3	8
4	5
	9

- ① J-VILLAGE (福島県双葉郡楢葉町)
- ② 国際基督教大学新体育館 (東京都三鷹市)
- ③ 九州大学(伊都)総合教育研究棟 (福岡県福岡市)
- ④ 星のや京都嵐峽館 (京都府京都市)
- ⑤ 北九州メディアドーム (福岡県北九州市)
- ⑥ 香港国際空港ターミナルビル (香港)
- ⑦ レッドウッド南港ディストリビューションセンター (大阪府大阪市)
- ⑧ ヤマザキマザックいなべ製作所 (三重県いなべ市)
- ⑨ MARK IS 静岡 (静岡県静岡市)

MAEDA Now



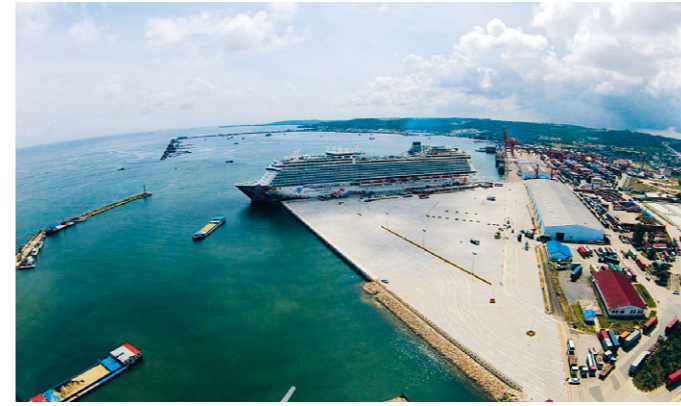
エネルギーを生み出す

原点たるダム・水力発電所から、持続可能な世界を支える風力・太陽光発電などの再生可能エネルギー施設まで。前田建設は、エネルギーを生み出す施設で社会基盤を支えます。

1	5
	6
	7
2	3
	4
	8

- ①京極発電所(北海道虻田郡京極町)
- ②南相木ダム(長野県南佐久郡南相木村)
- ③バタンアイダム(マレーシア)
- ④吹越台地風力発電所(青森県上北郡六ヶ所)
- ⑤ダーミーダム(ベトナム)
- ⑥珠洲風力発電所(石川県珠洲市)
- ⑦豊実水力発電所(新潟県東蒲原郡阿賀町)
- ⑧美祢太陽光発電所(山口県美祢市)





まちと人をつなぐ

トンネル、鉄道、高速道路、大型連絡橋、空港から、港湾施設まで。前田建設は、創業以来培ってきた土木事業の経験と技術で、まちと人をつなぐ交通インフラをつくり続けます。

	4	5
1	6	7
	8	
2	3	9

- ① 新名神高速道路切畑トンネル (兵庫県川辺郡猪名川町～宝塚市)
- ② 青函トンネル(北海道松前郡福島町)
- ③ カブサイモン橋(香港)
- ④ シハヌークビル港多目的ターミナル(カンボジア)
- ⑤ 東京湾横断道路・海ほたる(千葉県木更津市)
- ⑥ 国道45号新鍛台トンネル(岩手県大船渡市)
- ⑦ 相模原IC(神奈川県相模原市)
- ⑧ 北海道新幹線飯田高架橋(北海道北斗市～亀田郡七飯町)
- ⑨ 仙台海岸深沼海岸堤防(宮城県仙台市)

MAEDA Future

総合インフラサービス企業へ

「請負(エンジニアリング力)」と「脱請負(新たな建設サービス)」を融合し、
社会に新たな価値を提供する



協創で高める、 エンジニアリング力

オープンイノベーションで社会課題を解決する CSV経営プラットフォーム「ICI^{※1}ラボ」

2016年からCSV経営を重要な経営理念の柱と掲げたMAEDAが次の100年に向けめざすもの、それは総合インフラサービス企業として取り組むさまざまな社会課題の解決。その原動力は、建設で培う技術やノウハウです。MAEDAはエンジニアリング力のさらなる進化と新たな価値創造の拠点となる「ICI総合センター」を、茨城県取手市に開設しました。

2018年12月に先行してスタートした「ICIラボ」は、多様なパートナーとの協創により革新的技術開発や新ビジネスを実現するための三つのプラットフォーム機能(場・知・資金)を有します。「場」としては、幅広い最新の基盤実験施設を開放し、先進的オフィスを共有します。「知」では、技術、知財、起業、経営、文化など多様な分野の外部専門家を迎えイノベーターをサポートします。「資金」では、MAEDA SII^{※2}を運用し、市場からの資本調達が困難なベンチャー企業を資金面から支援します。

MAEDAはこの「ICIラボ」を、協創パートナーとともに成長・飛躍し、オープンイノベーションで多様な社会課題を解決するためのCSV経営プラットフォームと位置付けています。

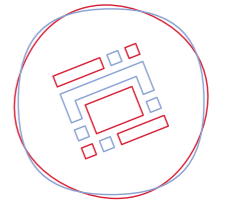
人材育成拠点「ICI人材開発センター」

「ICIラボ」に続き、2019年秋には人材育成拠点「ICI人材開発センター」をオープンします。この施設は、閉校した小学校を耐震・改修工事して利活用するもの。170名の宿泊とワークショップが可能な「宿泊棟」、200名を収容し、多目的に利用できる「セミナー棟」、体育館などで構成されます。知のネットワークによりベンチャー企業・社会・経済の融合をめざす「ICIラボ」に対し、地元自治体・大学・企業・住民など、文化・芸術を加えたネットワークによる新たな価値創造に寄与できる人材の育成と交流の拠点とします。

また、この小学校の跡地利活用は、高度経済成長期に建設された小・中学校の閉鎖や廃校が社会的課題となる中、活用されていない公共施設を再生させる、地域活性化の新しいモデルプロジェクトをめざしたものです。

志あるものがワクワクしながら集まる、未来創造のテーマパーク「ICI総合センター」。MAEDAは、皆が夢を語り、学び、実践する場から生み出すイノベーションで社会課題を解決し、「CSV経営No.1」をめざした挑戦を続けていきます。

※1 ICI: Incubation(孵化)×Cultivation(育成)×Innovation(革新)
※2 SII: Social Impact Investment



iC!

ICIラボ
練馬の技術研究所の移転で、新技術研究所として生まれ変わった施設。総合実験棟、構造実験棟、エクステンジ棟、ネスト棟と、主に4つの建物から成り立つ。



風環境実験装置

反力壁・反力床

ICI人材開発センター 廃校となった小学校の再生から生まれた拠点。宿泊棟、セミナー棟、体育館などを有する、外に開かれたオープンな施設。



ICI人材開発センター内観イメージ



閉校した取手市立白山西小学校



2 未来を切り拓く、 新たな建設サービス

NEXT100を見据えた、脱請負事業

100周年を迎えたMAEDAが、次の100年に向けめざすのは、総合インフラサービス企業として取り組む社会・インフラシステムの革新。請負と脱請負の融合、エンジニアリング力と新たな建設サービスの融合への挑戦として、まず着手したのが再生可能エネルギー事業でした。

まず、2013年に茨城県つくば市で太陽光発電所が稼働を開始。続いて2015年に本格稼働し売電を始めたのが五葉山太陽光発電所。MAEDAは、岩手県大船渡市が震災復興事業として公募したこの事業を、土地をそのまま生かした施工で自然環境への負荷を最小限としたプランを提案して受注。地域主体の地産地消型の再生可能エネルギー事業として、地域社会への価値提供を実現しています。

そして、脱請負の中心となるのが、建設業によって長年にわたり培ってきたエンジニアリング力を核に、事業投資や開発などの上流から運営管理などの下流まで、全ての領域を担うコンセッション事業です。

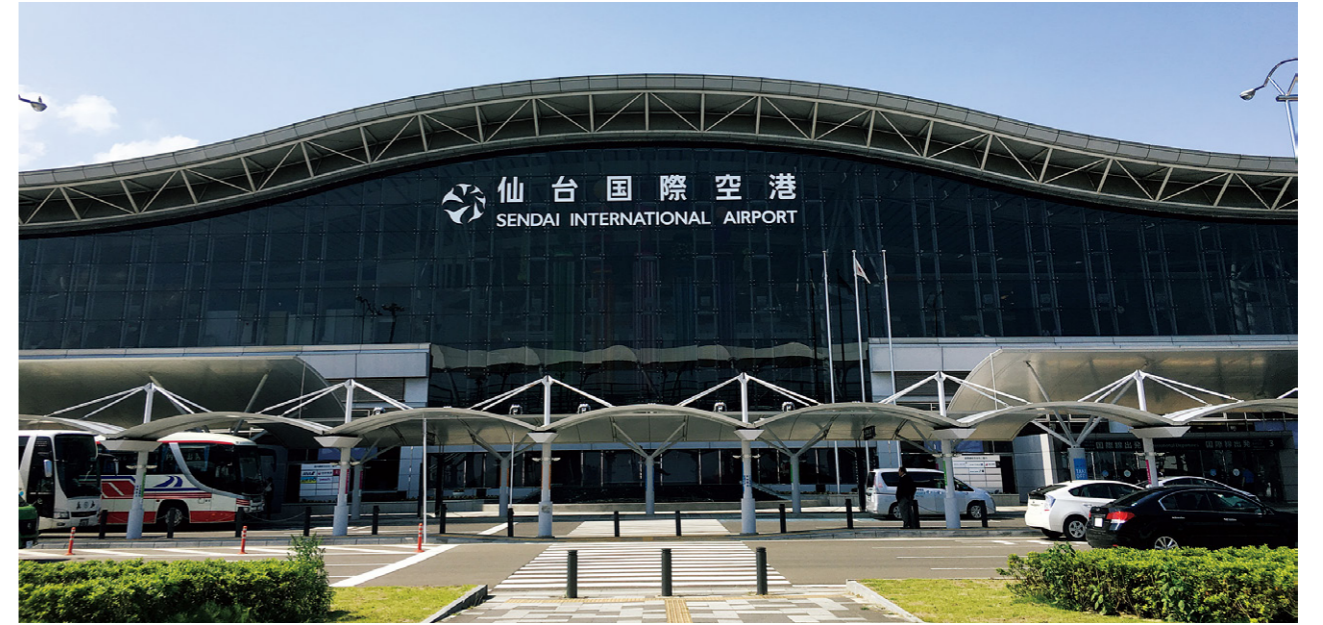
地域活性化から、多様な社会課題の解決へ

MAEDAが携わった最初のコンセッション事業は仙台国際空港。2016年7月、当社を含む異業種の企業体により共同運営を開始。建設会社であるMAEDAがメインとしてきたインフラや設備部分の提案だけでなく、空港や街の未来を見据え、持続的な地域の活性化・成長の実現をめざした運用を行っています。

また、愛知県有料道路も、MAEDAを代表企業とするコンソーシアムが優先交渉権者に選定され、2016年10月から運営を開始。道路利用者への安全・安心を最優先した事業運営はもちろん、パーキングエリアをブランド化し整備するなど、地域活性化・地域振興に貢献する道路運営を行っています。

2019年9月に運営が始まる、国内4番目の広さの愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)では、愛知県有料道路との相乗効果で、周辺地域の産業振興を図ります。

コンセッション事業を通じて地域社会を再生し、さまざまな社会課題を解決する。これが総合インフラサービス企業としてMAEDAが描く未来のビジョンです。



仙台国際空港 日本初の民間運営による国管理空港。東急電鉄、豊田通商などと出資する「仙台国際空港(株)」が運営。



愛知県有料道路 日本初の民間運営による有料道路。当社を代表企業に、森トラストや大和リースなどと出資する「愛知道路コンセッション(株)」により、知多半島道路や南知多道路など8路線を運営。



五葉山太陽光発電所 岩手県大船渡市五葉牧野。発電出力18MW、パネル総数73,440枚、供給能力は一般家庭約5,800世帯分に相当。



愛知県国際展示場 常滑市セントレアの中部国際空港島内に建設。GL eventsとの共同出資「愛知国際会議展示場(株)」により運営予定。(2019年9月運営開始予定)

Dialogue on the Future

前田操治 × 米倉誠一郎氏対談

Next 100

100周年とこれからの100年

創業以来、数多くの厳しい状況乗り越え100周年を迎えた前田建設。

その間途絶えることなく受け継がれてきたものは、誠実さ、堅実な経営、変化を恐れず挑戦する姿勢。総合インフラサービス企業として新たな一步を踏み出そうとする今、どんな課題に、どう取り組むのか。経営史とイノベーション研究の第一人者・米倉誠一郎氏と前田建設社長 前田操治の対談から、未来の姿を描きます。

誠実に、そして挑戦と変化を恐れないDNA

前田 当社は、本年創業100周年を迎えました。福井の石工だった初代・前田又兵衛が、土木事業で身を立てようと飛鳥組に入って7年修業し、1919年(大正8年)1月8日に、前田事務所として創業したのが始まりです。最初は木曽福島の山中に水力発電所をつくる事業で、初代又兵衛は5人の部下を率い、「事業は人格の反映なり」の理念を基に誠実に仕事をしました。のちの「良い仕事をして顧客の信頼を得る」にもつながるこれらの理念と姿勢は今に続くDNAです。

二代目又兵衛は、昭和の恐慌や戦争による荒廃などの厳しい社会環境の中、山岳土木の技術に磨きをかけ、実績を重ねました。1946年には株式会社化、戦後復興の中で事業は都市土木分野にも拡大し、1960年以降、建築分野や国際市場にも進出して日本一、東洋一、世界一といわれた数々のプロジェクトにも挑戦し、現在の地位を築きました。

1990年代になってからは、バブル崩壊により建設業は“冬の時代”に入り、当社はこれまでの請負型の仕事の在り方そのものを見直すという難しい課題に取り組みました。

未踏の分野にもあえて挑戦し、その時々で現状を打破し

てきたのが当社の歴史ですが、常に根底には生き残りをかける、という危機感があったのだと思います。

米倉 100年も続く老舗企業というのは、変化し続けることによって生き残ってきたのだと思います。いい換えると、強い企業というのは変わり続ける企業です。数年前、前田社長にお会いした時に、「人口が減り市場が縮小する時代に、日本の建設業はいったい何をしているんだ」とお話ししました。国内は新規需要よりもリニューアル需要が中心となり、一方、AIやロボットなどの技術革新が進む…。こういう変化は実は大きなチャンスにつながっていることに気づいている人が少ないと感じていたからです。

前田 おっしゃる通りだと思います。請負という仕事は、事業そのものの意義や目的よりも、いかに上手くつくるかというプロセスの革新に関心が向きがちです。しかし発注者、すなわち事業主の視点に立てば目的や社会課題が見えます。そうすることで共有価値の創造というか、発注者と同じ目的意識で企画提案もできます。当社が土木・建築に次ぐ第3の柱に育てようとしているのが脱請負事業です。自らが事業主として事業開発や投資を行い、工事や、施設の運営・管理まで一貫して手がけることで付加価値を高めます。

前田操治

前田建設工業代表取締役社長。1967年福井生まれ。早稲田大学人間科学部卒業、カーネギーメロン大学経営工学大学院修士課程修了。1997年前田建設工業株式会社入社。取締役常務執行役員、取締役専務執行役員などを経て、2016年4月社長就任。

米倉誠一郎

一橋大学イノベーション研究センター特任教授。1953年東京生まれ。ハーバード大学Ph.D.、法政大学・一橋大学教授の他、Japan-Somaliland Open University 学長。NPO法人Teach For Japanアドバイザーも務める。2001年より「一橋ビジネスレビュー」編集委員長を兼任。イノベーションを核とした企業の経営戦略と発展プロセス、組織の史的な研究を専門とし、多くの経営者から熱い支持を受ける。



社会課題に目を向ければ見えてくる 新しい市場

前田 今の日本は、労働人口の減少、国や地方自治体の財政窮乏、また建築物や社会インフラの老朽化など多くの社会課題に直面しています。建設業に限らずどんな事業でも、大きな発想の転換と果敢な挑戦をしなければ継続的に発展することは不可能ではないかと考えています。たとえば、日本と同様にドイツも、労働人口の減少という社会課題を抱えています。しかし年間就労時間は1,300時間台、日本は短くなってきているとはいえ1,700時間台、日本の建設業は2,000時間を超える水準です。経営史やイノベーションを研究されてきたお立場から、米倉先生はどのようにご覧になっていますか。

米倉 日本とドイツの差は生産性の違い、労働の質の問題ですね。それと何でも規制したがる行政や、失敗を許容しない世間の空気も関係していると思います。企業も、短期的な利益の追求に傾斜して労働環境や設備への投資が十分ではないと感じます。働き方改革とは生産性を上げることで、投資をともなうものです。

もう一点指摘したいのは、人口減少で悩んでいるのは一部の先進国であって地球規模では人口は爆発的に増えている。しかもその多くが都市に集中する「都市化」が不可避といわれています。国連ではアジア、アフリカを中心に2030年には約49億人が都市に住むと予測しています。そうすると当然、居住環境は過密・狭小になる。“ウサギ小屋”ぐらして培った(笑)日本の技術と智慧の出番です。それに水道や道路など日本のインフラ技術は世界一です。世界が日本に対して抱いているのは、「丁寧な職人技とハイテクを融合する人たち」というイメージです。

前田 元気が出るお話ですね。当社も海外事業を開拓し、世界に誇れるような実績ができてきましたが、まだまだ経験を積みたいです。

挑戦という意味では先ほどふれた「脱請負」、つまり事業

領域を上流・下流へ拡大するために、PFI(民間主導事業)やPPP(公民連携事業)、コンセッション事業に注力しています。現在、仙台国際空港、愛知県有料道路、そして2019年9月運営開始の愛知県国際展示場と3件のコンセッション事業を手がけています。たとえば、空港であれば旅客数を増やす、道路であれば交通量を増やすことがテーマになる。つまり、これは地域活性化事業です。これからコンセッションは空港、道路だけではなく港湾や水道にも広がっていきます。これをきっかけに、地域を元気にする、地方経済を活性化するコンセッション事業を通じて、将来的には海外においても社会課題の解決に挑戦していきたいと考えています。

「アズ・ア・サービス」の時代に 変革が迫られる建設業

米倉 水道事業の民営化でもコンセッション事業が話題になりましたが、これを単に「公から民へ」という流れと理解すると本質を見失います。もっと大きな変化が底流にある。今、業績トップクラスの自動車メーカーや電機メーカーなどが取り組もうとしているのは、「アズ・ア・サービス」、つまり自動車メーカー、電機メーカーという製造業の枠からはみ出す新しいサービス事業への転換です。自動車を例にとれば、広義の移動手段であり、自動運転を含めた技術革新と情報サービスを組み合わせることで「モビリティ・アズ・ア・サービス」を事業の柱にしようとしています。シェアリング・エコノミーが進む今、週末にしか乗らないようなクルマを所有する時代ではありません。たとえば年間1万km走行の契約で目的別にピークを乗り分けるサービスもあり得ます。日本にはこの大潮流に気づかない業界もまだあります。建設業なら「コンストラクション・アズ・ア・サービス」を構想すべき段階になっているのです。

前田 先生がお考えの「コンストラクション・アズ・ア・サービス」とは、どのようなイメージですか？

米倉 いってみれば「プラットフォーム」になることだと思います。プラットフォームとは、ビッグデータをIT処理した上に、



金融サービスを乗せることです。たとえば「スマートシティ」を開発すれば一刻一刻の利用がビッグデータとして集まる。ITによるコントロールができる。そして地代や家賃収入につながるフィンテック(金融情報技術)も導入できる。むき出しの建物賃貸「スケルトン・ビルディング」も、プラットフォームとして取り組めば新事業に進化できるでしょう。建設を売り切りでなく、付帯事業やメンテナンスを含めサービス化することが重要です。従来の業態、技術資産にしがみつかずに、創造的な破壊、つまりイノベーションを進めるのに、今ほど良い条件がそろっている時代はないのです。

前田 これからは、官や学さらには異業種も含めた他企業とも連携するオープンイノベーションの時代だというのは、以前米倉先生から教わりました。愛知県有料道路のコンセッション事業に携わることになり、実際にファイナンスを始めてみて、インフラに関わることで得られる知見は非常に大きいことがわかりました。従来は事業主しか知り得なかったデータが得られますし、他企業から「こんな新しい技術があります」とコラボを持ちかけられることもこれまで以上に増えました。愛知県では、橋梁の設計において技術を公募するという試みをしています。これもオープンイノベーションの一例だと思います。

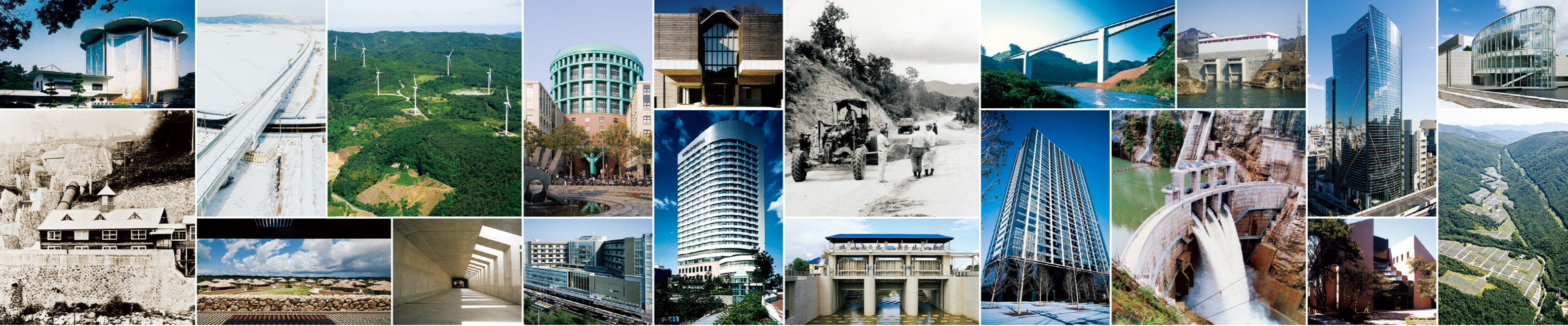
ワクワクする未来に向けたICI総合センター

前田 先に、「前田建設は、危機感から挑戦と変化を重ねてきた」とお話ししましたが、正直なところ「危機感」からだけでは物足りない気がしています。先生のお話をうかがい、事業を通じて「社会に貢献すること」が「やりがい」につながり、それが「ワクワク」となって未来に進進するのだと考えました。今日の先生のお話で元気が出るとともに、方向性において間違っていないという自信も生まれました。特に念頭にあったのは、当社の新技術研究所と人材開発の拠点「ICI総合センター」のことです。これは100周年記念事業の一環としてこのたび茨城県取手市にオープンしたものです。当社には

MAEDA SII (Social Impact Investment) という制度があり、技術で社会課題の解決に寄与し、当社とコラボできるベンチャーに投資をする仕組みなのですが、この新しい「ICI総合センター」を、社内外のイノベーターが常駐し研究する場として活用していきます。建設業でのITやAIの活用を主たるテーマに、多くのベンチャー企業にも参加してもらい、オープンイノベーション型の研究開発を進めていきます。また、今年には、隣地の廃校を改装して200人収容規模の宿泊・研修施設もオープンさせます。ここを人材難に苦しむ地方の協力会社にも利用してもらい、人材育成や人材交流に活用していただくと期待しています。

米倉 それはすばらしい。廃校活用という社会課題に取り組んだ点も評価したい。海外から学びたいという人も積極的に受け入れて欲しいですね。日本は人や知識への投資をもっと増やさなくてはなりません。特に大学では理系人材の育成が資金不足のために困窮しています。そういう理系人材が、たとえばモバイル決済の仕組みを考えるとします。すると他の人材が、「これは与信、つまり信用創造に使えるぞ」と考え、より大きな事業になる。ケニアの「M-PESA(エムベサ)」がそうでした。日本にはLED研究でノーベル賞を受賞した天野さんがワイヤレス給電の研究をしていますが、オープンイノベーションでスマートシティへの応用も可能になるでしょう。すばらしいタネはたくさんあるのです。先ほどお話した「プラットフォーム」が活躍の舞台を用意できるかどうかなのです。

前田 本当にワクワクするお話ですね。人材が「カギ」になることも同感です。前田建設のこれまでの100年を概観して、そこからいきなり次の100年を構想することは現実的ではありません。私たちがめざす姿は、「請負(エンジニアリング力)」と「脱請負(新たな建設サービス)」の融合から、社会に価値を提供する「総合インフラサービス企業」です。今、そのビジョンに向け「10年先のMAEDA」を構想して準備することはできません。私たちの10年後は人材育成にかかっていると考えています。本日はお忙しい中、貴重なお話をたくさんありがとうございました。今後もご指導のほど、よろしくお願ひします。



MAEDA 100 years Story

東洋No.1のダム、世界No.1の海底トンネル、国内No.1の高層マンション…

1919年の創業以来、前田建設は時代のニーズに応える挑戦を続け、

幾多の「No.1」を成し遂げてきました。

創業100周年を迎えた2019年、私たちはこれまでの歴史を継承し乗り越え、

新たな「No.1」への挑戦を始めます。

社是

誠実

事業をやっていくからには
儲けなければならない。
だが、儲けることばかり考えていたのでは
事業は持続きしない。
そこに真心があり、
取引先と心の触れ合いがあってこそ
事業は持続し、発展する。
「誠実」が事業の根本である。

意欲

仕事、それは自分との戦いである。
技術にしても、価格や工期にしても
負けられないという自負心や、
打ち克たねばならぬとして
己を鞭打つ「意欲」に欠けては
仕事は出来ない。
要は“やる気”である。
「意欲」それは仕事においても、
人生においても不可欠な心の糧である。

技術

前田は「技術」を売る会社である。
工事の出来栄をひと目見れば、
これは前田がやったのだということが
わかるような仕事でありたい。
他人のまねをするより、
他人がまねたがる「技術」
それが我々の売りものである。

創業理念

良い仕事をして顧客の信頼を得る

前田建設創業の理念にして、
品質方針として掲げる「良い仕事をして顧客の信頼を得る」。
誠実にものづくりに徹することで生まれる顧客と社会との信頼感。それが次の一歩につながる。

1960年竣工
田子倉ダム



1983年貫通
青函トンネル



1997年開通
東京湾横断道路 海ほたる



2008年竣工
THE TOKYO TOWERS



2009年竣工
ストーンカッターズ橋



2016年完全民営化
仙台国際空港



MAEDA 100 years Story

Infrastructure

人や社会のライフラインを支える

前田の挑戦は山岳土木から

始まりは、水力発電所建設

土木事業で身を立てると志で飛島組の門をくぐった、創業者初代前田又兵衛。1919年(大正8年)1月8日、福井県小和清水の地で、飛島組「前田事務所」として創業しました。これが、前田建設100年の歴史の始まりです。最初に請け負った事業は、長野県木曾川に流入する王滝川での木曾福島第2水力発電所建設。5名にも満たない陣容で取り組んだこの新設工事が、前田建設最初の挑戦でした。現在は跡地に放水口と基礎部だけが残り、当時の面影を伝えています。

初代又兵衛は「事業は人格の反映なり」の理念を基に誠実に仕事をしました。この理念は、のちの「良い仕事をして顧客の信頼を得る」にもつながり、100年経った現在も前田の変わらぬ普遍的な姿勢として受け継がれています。

前田の原点、高瀬川発電所

続いて請け負ったのが、北アルプスの高瀬川渓谷への4つの水路式発電所建設工事でした。険峻な山岳、もろい岩質、吹き出す熱泉、岩を割るほどの冬の寒さと雪。「猿も顔負けする」といわれた厳しい環境下で、まず道を拓くこ



木曾福島第2水力発電所(長野)

とから始める難工事。多くの同業者が尻込みする中、初代又兵衛は自ら陣頭に立ち、社運を賭けてこの事業をやり遂げました。

当時、又兵衛のこの真摯な姿を目にした施主側の森轟昶氏(昭和電工創業者)が「先人が不可能といった事業を敢然征服し成就するのは、ただ至誠天を動かす底の人格である」と評したほど。このように、顧客の厚い信頼と部下の強い結束をもたらした高瀬川発電所こそ、創業理念を形にして示した前田の原点ともいえる一大事業でした。

ダム建設のリーディングカンパニーへ

昭和恐慌や戦時下という厳しい社会環境の中、過去に経験のない大規模ダム工事への挑戦を続けた前田。戦後間もない1946年(昭和21年)11月6日に「前田建設工業株式会社」として改組し、現在の前田建設が始まりました。そして、1955年(昭和30年)に請け負ったのが、電力の緊急事態に備え計画された福島県只見川上流の田子倉ダムでした。

同時期に建設された佐久間ダムを凌ぐ38万kWの大型ダム建設。競合各社から垂涎的となったこの工事は、社長として指揮に立った二代目前田又兵衛にとって、まさしく正念場。これを全社挙げての努力で受注し、当時で東洋一と称されたスケールのコンクリート重力式ダムを完成。こ



高瀬ダムの表面は、直径1m以上もある玉石を8万個、チルトドーザーで一つひとつ並べて仕上げられている

の工事の中で、日本で最初といわれた多くの工法や記録が確立されていきました。さらに1971年(昭和46年)には、東洋一の大規模揚水発電用ロックフィルダム、高瀬ダムを受注。こうして、前田はダム建設のリーディングカンパニーとしての地位を築き上げていきました。



田子倉ダム(福島)



高瀬ダム(長野)

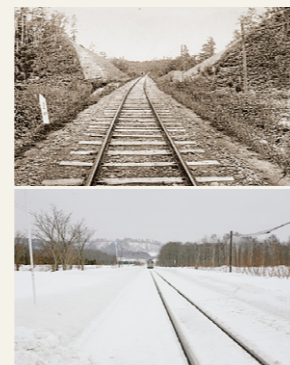
●沿革と主な受注工事(1919年~1939年)

- 1919 ●初代前田又兵衛、飛島組傘下で「前田事務所」を開設(大正8年1月8日創業)
- 電気製鋼所:木曾福島第2水力発電所受注(長野)(創業最初の工事)
- 1921 ●鉄道省:北海道天塩線鉄道路盤工事受注(北海道)
- 1922 ●東信電気:高瀬川第2、3、4、5発電所受注(長野)

1925



木曾福島第2水力発電所工事現場で。前列中央に座っているのが初代又兵衛



当時の天塩線(上)と現在のJR宗谷本線(下)。当社施工はそのうち佐久駅~天塩中川駅間

1930



半世紀後の新ダム建設にともない第2、第3、第4が湖底に沈んだ高瀬川発電所。第5発電所のみ、かさ上げして発電施設を移し現在も稼働している(左)

1935

- 1938 ●初代前田又兵衛、新郷発電所作業所にて急逝。嗣子正治が事業を継ぎ、同時に又兵衛を襲名

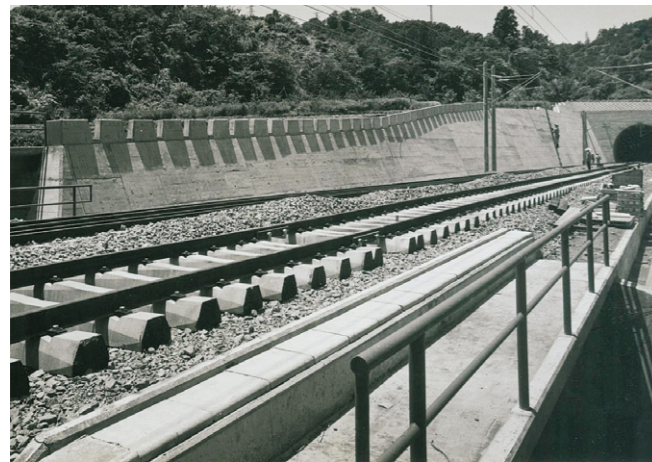


新郷発電所(福島)

挑戦の舞台は街へ そしてさらなる大規模プロジェクトへ

都市土木での新たな挑戦

ダム建設のリーディングカンパニーとしての実績で、社会の信頼と期待を高めていった前田。数々の困難なダム建設で培われた技術と経験をもって、事業領域を山間部から市街地へと拡大していきました。まず、1951年(昭和26年)の営団地下鉄丸ノ内線工事から始まった都心での大型土木工事。この成功から、東海道新幹線国府津工区工事、



東海道新幹線国府津工区工事(神奈川)

名神高速道路茨木工区工事など、主要都市をつなぐ鉄道や道路の整備を担うようになります。

また、世界最長・最深の海底部分を有する青函トンネルで本州と北海道を、瀬戸大橋で本州と四国をつなぐなど、南北に長い島国日本列島内の移動時間を革命的に短縮。のちに1997年(平成9年)開通する、川崎と千葉を結ぶ東京湾横断道路(東京湾アクアライン)の工事では、世界最大級シールドによる海底での自動掘進とセグメント自動組立の技術を確立させました。このように前田は、数々の難易度の高い国家的プロジェクトに携わり、高度経済成長の基盤となる日本の交通網構築に寄与しました。



東京湾横断道路(東京湾アクアライン)(千葉)

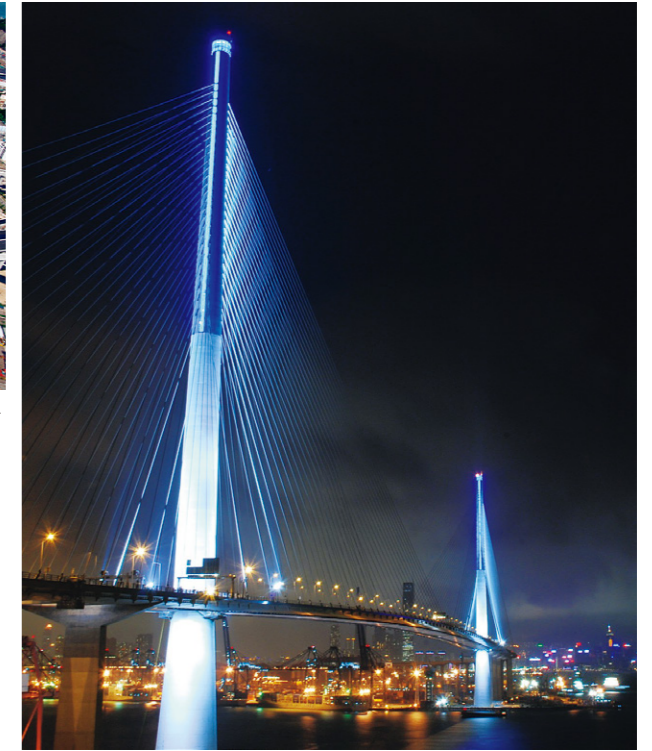


主塔の左右がアンバランスで、台風など風の影響を受けやすいため、側径間の橋桁を先につくり、中央径間に桁を張り出す工法を採用

世界へ進出する前田の技術

国内で鍛え上げた前田の技術は、海外でも高い評価を受けていきます。1963年(昭和38年)に戦後初の海外工事として進出した香港では、香港政府クワイチン開発計画第2期工事、「世界の空港」と評される香港国際空港ターミナルビル、香港紙幣の絵柄となったカプスイモン橋など、現地に欠かせない建造物を次々と手がけていきました。最大の実績は、ランブラー海峡を跨ぐ全長1,596メートルのストーンカッターズ橋。世界最大級の斜張橋として2009年(平成21年)に竣工し、香港の社会基盤として街を支えています。

タイでは、国連が決めた戦後最大の道路計画「アジアハイウェイ」に日本企業として初めて参加し、1965年(昭和40年)着工のランパンーチェンマイハイウェイ建設を担当。さらに、バンコク国際空港拡張工事やダオカノンーポート高速道路建設を経て、民間工事へと事業を拡大。ベトナムではダーミーダム水力発電所建設から始まり、現在はホーチミン市で

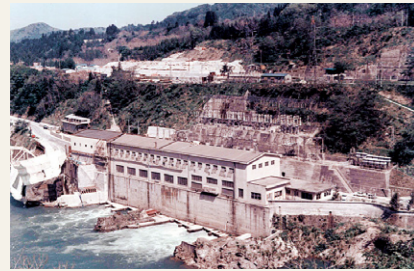



ストーンカッターズ橋(香港)

地下鉄トンネル工事が進んでいます。このように、前田の土木事業への信頼は世界の舞台へと広がっていきました。

戦後の復興と高度経済成長期において、社会の発展に欠かせない重要な役割を担ってきた前田。電力や水の安定供給、水害の防止などに貢献するダム建設、遠隔地への効率的移動や運送を可能とする鉄道・トンネル・橋梁などの建設を通じ、人々の暮らしと社会のライフラインを支える存在として成長を遂げていきました。

●沿革と主な受注工事(1940年~1959年)

1940	1945	1950	1955
<p>1944 ●北陸電力：足羽川発電所受注(福井) 太平洋戦争下、資材・労働力不足で施工中の工事が中断したが、1947年に再開</p>  <p>宮下発電所</p>	<p>1946 ●東北電力：宮下発電所受注(福島) ●「前田事務所」を「前田建設工業株式会社」へ改組(昭和21年11月6日創立)</p>  <p>柳津発電所</p>	<p>1951 ●帝都高速度交通営団：営団地下鉄丸ノ内線受注(東京) ●愛知県：荒子川排水改良受注(愛知) ●北陸電力：五条方発電所受注(福井) ●東北電力：柳津発電所受注(福島)</p> <p>1952 ●北陸電力：神通川第一・第二発電所受注(富山) ●東北電力：上田発電所受注(福島) ●東京電力：下船渡発電所受注(新潟)</p>	<p>1955 ●電源開発：田子倉ダム受注(福島) ●関西電力：殿山発電所受注(和歌山)</p> <p>1956 ●北陸電力：有峰ダム受注(富山)</p> <p>1957 ●農林省：永源寺堰堤受注(滋賀)</p> <p>1958 ●愛知用水：白山トンネル受注(愛知) ●東京電力：品川火力発電所受注(東京) ●建設省：大倉ダム受注(宮城)</p>

MAEDA 100 years Story

Advancement

まちの発展に貢献する

新たなステージは「まちづくり」

建築部を設立し、建築分野へ

「土木の前田」として、揺るぎない実績を重ねてきた前田建設。その歩みは、建築分野への進出でさらに加速してきました。初の建築工事は、東京電力戸山変電所。土木工事に付随するダム管理棟などから始まった建築事業は、1960年(昭和35年)の建築部設立から本格化していきます。同年には、大型建築物の住宅・都市整備公団・常盤平団地を受注。続いて、東京税関庁舎をはじめ、福井県会議



住宅・都市整備公団・常盤平団地(千葉)

事堂、姉崎火力発電所超高压開閉所、皇后陛下御還暦記念桃華楽堂を施工するなど、都市土木建築とあわせ、まちづくりをトータルに担う企業へと成長していきました。

社は「誠実・意欲・技術」の制定

1968年(昭和43年)、前田建設は「誠実・意欲・技術」からなる「社是」を制定しました。これは初代前田又兵衛が、日頃から口にしてきた「誠実・意欲・技術を旨として、何事にも責任と情熱を持って率先垂範、陣頭指揮を執る」に由来しています。

—儲けることばかり考えていたのでは事業は永続さしない。そこに真心があり、取引先と心の触れ合いがあってこそ事業は永続し、発展する。(「誠実」より)

—仕事、それは自分との戦いである。負けないという自負心や、打ち克たねばならぬとして己を鞭打つこと。人生においても不可欠な心の糧である。(「意欲」より)

—工事の出来栄をひと目見れば、これは前田がやったのだということがわかるような仕事でありたい。他人のまねをするより、他人がまねたがる「技術」それが我々の売りものである。(「技術」より)

三つの言葉からなる「社是」の中で、「誠実」こそが、創業者の心を表す最も適確な言葉。制定から50年余りを経て100周年を迎えた現在も、私たちはその意志を未来へ向け受け継いでいるのです。

技 意 誠 術 欲 実

初代前田又兵衛の言葉から制定された、前田建設社は「誠実・意欲・技術」

民間建築分野の拡大へ

公共工事から始まった建築事業は、1980年代には民間工事へと本格進出。光が丘IMA、牛久駅西口地区第一種

市街地再開発事業など、工場、集合住宅や商業施設へと展開していきました。1986年(昭和61年)には、高層RC建造物の開発に着手し、その2年後に財団法人日本建築センターの「高層コンクリート構造技術委員会」の審査が終了。その間に前田独自の構造設計法、部材の性能評価、施工法を確立させていきました。

1991年(平成3年)には、前田建設初の高層RC造21階建マンション、ライオンズタワー東札幌が竣工。これ以降、天王洲セントラルタワー、光が丘の超高層ビルJ.CITY、さらには日本初の開閉式屋根を備えた福岡ドーム建設へと挑戦を続け、建築技術の拡大を進めていきました。



光が丘J.CITY(東京)



福岡ドーム(現ヤフオクドーム)(福岡)

●沿革と主な受注工事(1960年~1979年)

1960	1965	1970	1975
1960 ●日本国有鉄道：東海道新幹線国府津工区受注(神奈川) ●建築部設立 ●住宅・都市整備公団：常盤平団地受注(千葉)	1965 ●福井県：福井県会議事堂受注(福井) ●東電設計：姉崎火力発電所超高压開閉所受注(千葉) ●タイ国道路局：ランバン—チェンマイハイウェイ受注(タイ)	1970 ●関西電力：高浜発電所受注(福井) 1971 ●東京電力：高瀬ダム受注(長野) 1972 ●日本鉄道建設公団：青函トンネル吉岡工区受注(北海道) 1973 ●二代目又兵衛、(社)日本建設業団体連合会会長に就任 1974 ●東京電力：福島第2原子力発電所受注(福島) ●電源開発：手取川ダム受注(石川)	1976 ●九州電力：玄海原子力発電所受注(佐賀) ●福島県：四時ダム受注(福島) 1977 ●日本道路公団：関越トンネル受注(群馬) ●農林水産省：新鶴子ダム受注(山形) 1978 ●本州四国連絡橋公団：南北備讃瀬戸大橋受注(香川) 1979 ●東京電力：栗山ダム受注(栃木)
1961 ●西日本高速道路：名神高速道路茨木工区受注(大阪) 1962 ●東証2部上場 ●建設省：東京税関庁舎受注(東京) 1963 ●香港政府：クワイチン開発計画第2期受注(香港) 1964 ●東証1部上場 ●中国電力：新成羽ダム受注(岡山) ●宮内庁：皇后陛下御還暦記念桃華楽堂受注(東京)	1966 ●立山黒部貫光：立山トンネル受注(富山) 1968 ●社は「誠実・意欲・技術」制定		



THE TOKYO TOWERS(東京)



飯田橋駅西口地区再開発(東京)

多様性ある「まちづくり」への貢献

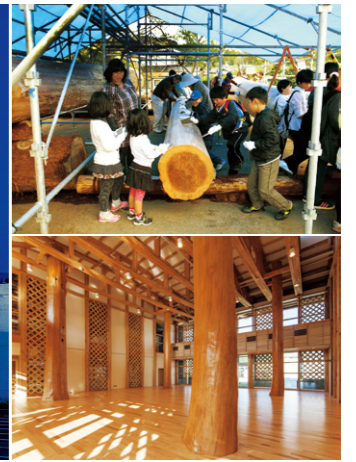
日本一の高層建造物への挑戦

RC造建造物設計・施工の技術開発を進めた前田は21世紀を迎え、次なるステージへと成長していきました。2003年(平成15年)、横浜みなとみらい地区に免震装置を備えた高さ100メートルの高層マンションM.M.TOWERSを建設。さらに2008年(平成20年)には、勝どきの再開発事業として、国内最高階層となる200メートルのツインタワーマンションTHE TOKYO TOWERSを竣工しました。数々の実績を重ねる中で、超高層RC造集合住宅の設計・施工システムMARC-Hシステムを確立。主要躯体のPCa化による合理化施工で、高品質・高耐久性の高層マンションを次々と誕生させていきます。

そして前田のPCa施工の集大成として、その技術を惜しみなく投入した工事が、2014年(平成26年)竣工のパークコート千代田富士見ザタワーです。前田建設が昭和初期から事業を営んできた地を、飯田橋駅西口地区再開発として生まれ変わらせる一大事業。現在、前田建設本店を含むオフィス棟飯田橋グラン・ブルーム、商業エリアのサクラテラスとあわせ、「飯田橋サクラパーク」街区となり、前田がめざす地域と一体感あるまちづくりそのものとして、賑わいを見せています。



岩手県住田町新庁舎(岩手)



町民が寄贈し磨き上げた「象徴木」

技術開発から生み出す未来のまちづくり

こうして超高層RC造建造物を含む集合住宅分野でも、業界のリーディングカンパニーとなった前田。しかし、私たちが思い描きめざすものは、建造物をつくり上げることにはとどまりません。それは、これまで100年の歴史で培ってきた建築技術を生かし、未来のまちづくりを創造すること。

たとえば、2014年(平成26年)の岩手県住田町新庁舎建設では、「森林・林業日本一」をめざす住田町の木材を可能な限り利用しました。地元林業の活性化を図るとともに、開かれた建設現場として、住田町の職人や建設会社とのコラボ

レーションで施工を実施。木造公共施設のモデルケースとなる、地域社会への価値提供を実現しました。私たちが手がける建造物が、それぞれの地域社会へ価値を生み出し、人々のくらしと経済を活性化させる。そんな未来のまちづくりの担い手となるビジョンを前田は抱いています。

土木から建築へと事業を拡大し、人と社会のライフラインを支え、まちづくりへの貢献を重ねてきた前田。絶えざる挑戦と高い技術力の集積を通じて、今では日本全国17拠点、海外13拠点を有し、社員3,000名を超える総合建設会社へと成長を遂げました。

●沿革と主な受注工事(1980年~1999年)

1980	1985	1990	1995
1980 ●タイ空港公団：バンコク国際空港拡張受注(タイ) 1984 ●タイ高速道路公団：ダオカノンポート高速道路受注(タイ) ●香港政庁：青衣北大橋受注(香港) ●北陸電力：敦賀火力発電所受注(福井) ●牛久市：牛久駅西口地区第一種市街地再開発事業受注(茨城)	1985 ●二代目又兵衛が会長就任、前田顕治が社長就任 ●新都市ライフホールディングス：光が丘IMA受注(東京) 1986 ●東京電力：八汐ダム受注(栃木) 1987 ●建設省：宇奈月ダム受注(富山) ●北海道：栗山ダム受注(北海道) 1988 ●東京電力：柏崎刈羽原子力発電所受注(新潟) 1989 ●デミング賞実施賞受賞 ●東京湾横断道路：東京湾横断道路木更津人工島受注(千葉) ●大京：ライオンズステーションタワー東札幌受注(北海道)	1990 ●中川特殊鋼：天王洲セントラルタワー受注(東京) ●東北電力：能代火力発電所受注(秋田) 1991 ●福岡ダイエー：福岡ドーム受注(福岡) ●東北電力：女川原子力発電所第2号機受注(宮城) 1992 ●前田建設：光が丘J.CITY受注(東京) ●日本鉄道建設公団：北陸新幹線御牧原トンネル受注(長野) ●香港政庁：汲水門大橋・馬灣高架橋受注(香港) ●東京湾横断道路：東京湾横断道路中央トンネル木更津北工区受注(千葉) 1993 ●社長前田顕治、(社)日本建設業団体連合会会長に就任 1994 ●社長前田顕治が会長就任、副社長前田靖治が社長就任 ●東京都：墨田地区清掃工場受注(東京)	1995 ●日本品質管理賞受賞 ●香港政庁：香港国際空港ターミナルビル受注(香港) ●山口県：角島大橋受注(山口) 1996 ●社長前田顕治、三代目又兵衛を襲名 ●北九州市：北九州メディアドーム受注(福岡) ●東京電力：南相木ダム受注(長野) 1998 ●再開発組合：新子安駅西地区第一種市街地再開発受注(神奈川) ●北陸電力：志賀原子力発電所第2号機放水路受注(石川) ●日本鉄道建設公団：常磐新線三ノ輪トンネル受注(東京) 1999 ●名古屋市：高速度鉄道第4号線八事北工区受注(愛知)

MAEDA 100 years Story

Sustainability

持続可能なくらしを支える

新たな建設サービスへの挑戦

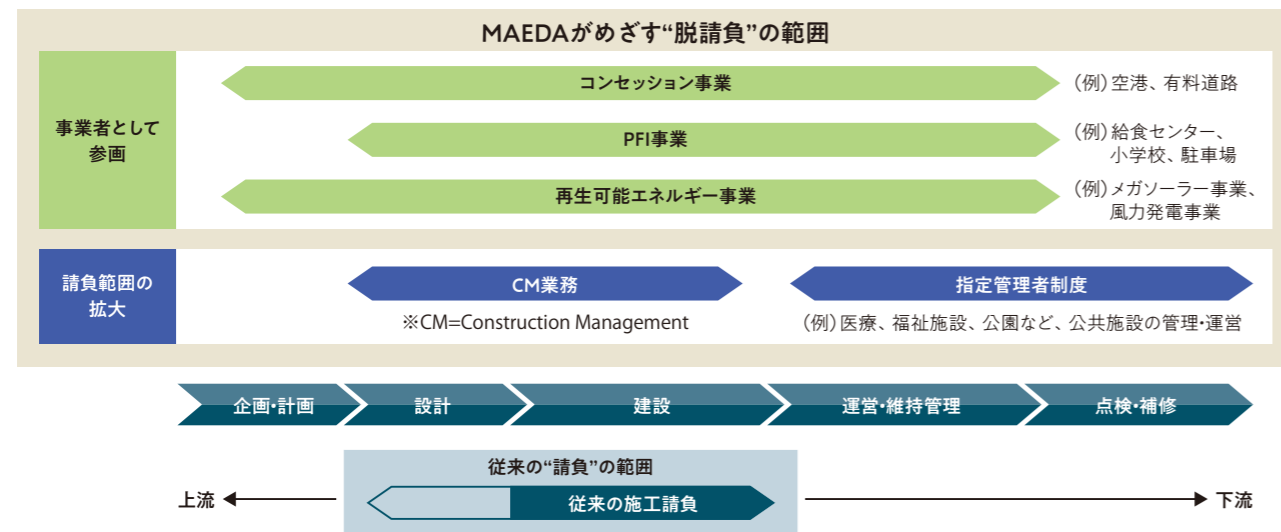
「請負」だけの建設業から転換

欧米で20世紀終盤に巻き起こった経済不況は、建設業界にも大きな影響を及ぼしました。21世紀、この波は日本にも例外なく押し寄せ、従来のビジネスモデルでは企業の存続そのものが危うい時代となった現在。これからも、前田建設が社会への価値を持続的に提供し、くらしを支える

存在であるために、私たちが目を向けたものは、欧州で実績を上げていたコンセッション事業でした。

新規建設需要が縮小し、既存建造物の維持管理需要が拡大していく中、前田は従来の「請負」のみのビジネスモデルからの転換に舵を取りました。公共施設を建造するという従来の請負の範囲を超え、その運営にも携わり維持管理していく。建設業自らが、企画・計画から、設計、建設、運営・維持管理、点検・補修まで、上流から下流の全てを担っていく。MAEDAは、未来の建設会社の姿として「脱請負」への歩みを始めたのです。

脱請負概念図：従来の施工請負とその上下流



環境問題の解決に向けて

「脱請負」に向けた事業の中で、先陣を切ったのは再生可能エネルギー発電。地球温暖化による気候変動問題が叫ばれる中、「環境経営No.1」を掲げた前田建設にとっては真骨頂といえる取り組みです。2013年(平成25年)、茨城県つくば市で最大出力2MWの太陽光発電の売電を開始。岩手県大船渡市では、2015年(平成27年)から最大出力18MWの五葉山太陽光発電所の売電を始め、震災被災地の復興事業として地域に貢献しています。また、秋田県八峰町では最大出力20MWの八峰風力発電所が2019年(平成31年)稼働、山口県下関沖では最大出力60MWの安岡洋上風力発電事業も計画するなど、再生可能エネルギー発電事業を着実に進めています。

社会課題の解決と持続可能な発展のために

国内第1号のコンセッション事業は、仙台国際空港の特定運営事業。複数の他企業と組んだコンソーシアムで運営権を獲得し、長期にわたる民間運営を2016年(平成28年)にスタート。また、同年10月に始まった愛知県有料道路コンセッション事業では、県内有料道路8路線の維持管理、運営、改築などを進めています。さらに、2019年9月に誕生する、愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)のコンセッション運営など、地域の活性化を促す「脱請負」のビジネスモデルを着実に拡大しています。



五葉山太陽光発電所(岩手)



愛知県有料道路(愛知)



八峰風力発電所(秋田)

1919年の初代又兵衛の創業から100年で培ってきた前田の挑戦の歴史、そこには一貫して「良い仕事をして顧客の信頼を得る」という創業理念が受け継がれています。私たちがめざすもの、それは事業を通じてさまざまな社会課題を解決し、持続可能なくらしを支える「CSV経営No.1」の企業。次の100年に向けた、新しいMAEDAの挑戦(Change!)はすでに始まっています。

●沿革と主な受注工事(2000年~2019年)

2000

- 2000 ●リテール事業参入(2001年「なおしや又兵衛」スタート)
 - 千葉市：千葉市消費生活センター計量検査所複合施設受注(千葉) 日本初の本格的PFI事業
 - 再開発組合：室町一丁目地区第一種市街地再開発受注(福岡)
 - 三菱地所：M.M.TOWERS 21受注(神奈川)
- 2001 ●北海道電力：京極ダム受注(北海道)
- 2002 ●社長前田靖治、(社)全国建設業協会会長に就任
 - 草加市：新草加市立病院受注(埼玉)
- 2003 ●再開発組合：町屋駅前南地区第一種市街地再開発受注(東京)
 - 東北学院：東北学院中学・高等学校受注(宮城)
- 2004 ●香港特別行政区：ストーンカッターズ斜張橋受注(香港)
 - 勝六再開発：勝どき再開発THE TOKYO TOWERS受注(東京)

- 2005 ●インクス：インクス茅野プロジェクト受注(長野)
 - 国土交通省：東京国際空港羽田D滑走路受注(東京)
 - 国土交通省：信濃川下流築堤監理試行業務受注(新潟)
- 2006 ●珠洲風力開発：珠洲風力発電プロジェクト受注(石川)
 - 台北市政府捷運局：台北地下鉄松山線CG590A工区受注(台北)
 - アパ建設：アパ仙台プロジェクト受注(宮城)
- 2007 ●セイロン電力庁：アッパーコトマレ水力発電所受注(スリランカ)
- 2008 ●東根市：東根市立神町小学校分館校整備等事業受注(山形)
- 2010 ●「環境経営No.1」を掲げる
- 2011 ●再開発組合：飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発事業受注(東京)
- 2012 ●特定目的会社：MARK IS 静岡受注(静岡)

- 2013 ●再開発組合：BIG FRONT ひろしま受注(広島)
 - 前田建設：つくば太陽光発電所売電開始(茨城)
 - 住田町：住田町新庁舎受注(岩手)
 - 盛岡地区広域消防組合：盛岡中央消防署新庁舎受注(岩手)
- 2014 ●住友不動産：住友不動産麻布十番ビル受注(東京)
 - ホーチミン市都市鉄道公社：ホーチミン地下鉄トンネル受注(ベトナム)
- 2015 ●特別目的会社：五葉山太陽光発電所売電開始(岩手)
- 2016 ●「CSV経営No.1」を掲げる
 - 宮城県：仙台国際空港(コンセッション)運営開始(宮城)
 - 愛知県：愛知県有料道路(コンセッション)運営開始(愛知)
 - 特定目的会社：レッドウッド南港ディストリビューションセンター受注(大阪)

- 2016 ●再開発組合：大崎ガーデンレジデンス受注(東京)
 - 筑西市：新中核病院受注(茨城)
 - ヤマザキマザック：いなべ製作所機械工場受注(三重)
- 2017 ●国際基督教大学：新体育館受注(東京)
 - 住友不動産：(仮称)有明北3-1地区(B-2街区・C街区)駐車場棟計画新築工事受注(東京)
- 2018 ●三井不動産レジデンシャル他9社：(仮称)晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業5-5街区板状棟建築物工事受注(東京)
- 2019 ●創業100周年(平成31年1月8日)
 - 特別目的会社：八峰風力発電所売電開始(秋田)
 - 愛知県：愛知県国際展示場(コンセッション)運営開始予定(愛知)